

<b>講義名</b>	対)現代ビジネス			
<b>担当教員</b>	上田 義朗			
<b>開講期・曜日・時限</b>	前期 金曜日 2時限	<b>授業形態</b>	講義	
<b>履修開始年次</b>	2年生	<b>単位数</b>	2	<b>備考</b>

**主題と概要**

世界また日本における現在進行中のビジネスの実態や課題について具体的に学びます。そのために新聞や雑誌の記事を配布します。

その具体的な記事を検討するための基本的な分析視角として、教科書に掲載された合計50のビジネス理論を活用します。

具体的な事例を理論的に考え、その事例の背景や問題点を抽出し、今後の展望を推論する。これらを通してビジネス感覚を養成します。

なお、本講義は予習をしっかりと、対面講義では対話や議論(=意見交換)をしっかりと。ダブルで「しっかり」した講義を理想としています。オンライン講義と対面講義の「ハイブリッド講義」を実施します。

**到達目標**

1. 世界や日本のビジネス記事の内容を理解し、それについて何らかの論評ができるようになります。
2. 教科書を通して経営学の理論を広く深く学ぶことができます。
3. 企業経営の課題の抽出とその解決策を検討できるようになります。

**提出課題**

レポートを何度が提出してもらいます。  
レポートにはレスポンスを含みます。

**課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック**

オンラインと対面の講義中に執筆したレポート内容について口頭で発表し、それについて議論します。  
レポートの口頭発表や、その議論に参加した学生に得点を与えます。

**評価の基準**

レポートと発言を総合的に評価します。  
期末試験の実施の有無については受講生の人数を勘案して判断して発表します。  
積極的な講義参加を評価の重点とします。したがって評価では講義中の発言が重視されます。  
なお、オンライン講義にしか出席できない学生は、メールで意見を述べてもらうことで発言と同等とみなします。

**履修にあたっての注意・助言他**

対面講義では、間違っても良いので積極的に発言して下さい。それが評価の点数になります。  
そのためにはオンライン講義を予習として受講して下さい。  
たとえばユニクロ、Q8ハウス、スターバックス、大塚家具など新聞や雑誌に登場する企業を事例とするほかに、業界分析や時事問題を取り上げます。  
同時に教科書も1冊全部を読むことを予定していますから、受講生にとっては、かなりハードな講義になると思います。

<b>教科書</b>	.世界のエリートが学んでいるMBA必読書50冊を1冊にまとめてみた.	永井孝尚	KADOKAWA	1848円	978-4-04-604053-4

**プリント資料及び参考文献**

主要新聞を始め『日経ビジネス』、『東洋経済』、『週刊ダイヤモンド』、『エコノミスト』等の記事を配布します。そのほか経営学の関連資料を配付します。  
参考文献については、適時指示します。

**授業計画**

教科書の順番にオンライン講義をします。それを基本的に以下のように対面講義では、時事問題を応用として考えます。教科書の順番を重視するか、その時々最新のニュースを重視するか。それによって講義の内容が変化します。とりあえず、柔軟に対応するということで、以下のように簡単に講義概要を示します。

教科書は、添付ファイルの写真を参照して下さい。

教科書の概要  
第1章 戦略  
第2章 経営とイノベーション  
第3章 起業と新規事業  
第4章 マーケティング  
第5章 リーダーシップと組織  
第6章 人

具体的な講義は臨機応変に柔軟です。

1. 新聞記事の配布と議論、教科書の参照と内容の説明と議論
2. 同上
3. 同上
4. 同上
5. 同上
6. 同上
7. 同上
8. 同上
9. 同上
10. 同上
11. 同上
12. 同上
13. 同上
14. 同上・・・講義全体の総括

**授業形態(アクティブ・ラーニング)**

<input type="radio"/> ア:PBL(課題解決型学習)	<input type="radio"/> イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
<input type="radio"/> ウ:ディスカッション、ディベート	エ:グループワーク
<input type="radio"/> オ:プレゼンテーション	カ:実習、フィールドワーク
<input type="checkbox"/> キ:その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

**準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間**

予習:オンライン講義を受講する。90分。  
事前に教科書や資料を読んでもらいます。その予習内容を対面講義で発表。また口頭の質問に対する回答をしてもらいます。これらに得点を与えます。  
復習1:講義中に前回の講義内容について口頭で確認の質問をします。教科書にアンダーラインを引いたり、書き込みをしたりする。もちろんノートを作成もよい。その時に考えたコメントやビジネスアイデアを書くことも勧めます。  
復習2:新しい試みとして、自分の作成したノートや書き込みのある教科書をを提示することで得点を与えます。これは実験的に実施します。

**卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連**

本学の建学の精神または建学理念としての実学を実践するために、本講義では「ハイブリッド講義」を実施します。

**双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述**

すでに説明しているように、ハイブリッド講義を実施します。教員にとっては2回の講義をする、受講生にとっては予習が強制される。双方が苦勞なのですが、それを実行することで何が面白いと起こる。そういう講義です。  
受講生は講義中にSNSを使用して、専門用語や具体的な事例またYouTubeを閲覧して、それについて発表してもらいます。これについて得点を与えます。

**実務経験の有無及び活用**

実務経験あり。  
1. 株式投資ファンドの組成(岩井コスモ証券、販売総長)  
2. 海外進出のコンサルティング(現職:日本ベトナム経済交流センター副理事長)  
3. 複数業種の国際的なビジネスマッチング(現職:ネパールHRDICT社顧問、合同会社IET)  
4. 映画「ベトナムの嵐に吹かれて」(主演:松坂慶子、監督:大森一樹)製作(製作委員会:エグゼクティブ・プロデューサー)  
・・・研究上の論理的な整合性と、実務上の非論理的で柔軟な現実の「矛盾」について、その理由や背景についての私の具体的な経験と知見は、受講生の指導に活用できます。

**備考**

質問は講義の最中や前後にして下さい。またメールを歓迎します。  
Yoshiaki\_Ueda@red.unds.ac.jp